

平成 28 年度 第 6 回臨床腫瘍セミナー

日時：平成 28 年 10 月 18 日（火）18：00～19：00

場所：福島県立医科大学 11 号館 第 2 臨床講義室

エビデンスをどう作るか、どう評価するか

-臨床研究と生物統計学-

参加無料
事前申込み不要

講師

中央大学理工学部人間総合理工学科 教授（生物統計学）
東京大学名誉教授

大橋 靖雄 先生



プロフィール

1954 年福島市生まれ。東大工学部卒業後、同助手から 1984 年に医学部へ移籍、中央医療情報部講師・助教授を経て 1990 年から保健学科疫学教室教授、1992 年に日本の大学最初の生物統計学の講座を設立（疫学・生物統計学教室）。2014 年に東京大学を退職し現職。研究者主導研究の支援を行う NPO 日本臨床研究支援ユニットを 2001 年に設立。2011 年日本計量生物学会学会賞、2014 年朝日がん大賞受賞・2015 年井村臨床研究賞（いずれも医師以外では初めて）。2011 年 4 月から大震災被災の福島県民支援プロジェクト「きぼうときずな」を主催、新たなコミュニティー・地域医療システム作りへの貢献を模索中。

講演要旨

「臨床試験や疫学調査によってエビデンスを作ること」自体は古くから存在した。医療技術評価としてランダム化試験が導入されたのは 1947 年からの B.Hill のストレプトマイシンの結核に対する治療研究であった。しかしこれが定着するまでには欧米でも長い年月が必要であった。大規模試験が標準治療や予防法を確立するのは 1980 年台に入ってからである。臨床研究の重要性の認知が遅れ、基盤整備が不十分なわが国では、がん以外の臨床領域ではいまでも EBM は定着不十分と云ってよい。

本講演では、EBM と生物統計学の関わりを歴史的に俯瞰し、「研究論文をどう読むか」「研究論文をどう出版するか」について統計的観点から述べる。前者については「統計でどうウソをつくか」「不適切な解析手法の事例」「交絡とその調整」を話題とし、後者は、「これまでの実態」「公正・倫理的出版のために何がなされてきたか」「現在のガイドライン」を話題とする。

◆がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ及び、患者様、一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。

◆本セミナーは「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」事業の一環となっています。

◆本学大学院生は、大学院授業要綱で規定する共通必修科目（規定の 8）に該当します。履修票を忘れずにお持ち下さい。

お問い合わせ：福島県立医科大学教育研修支援課 がんプロフェッショナル養成支援室

TEL：024-547-1095 E-MAIL:ganpro@fmu.ac.jp

次回セミナー予定

日時：平成 28 年 11 月 22 日（火）18：00～19：00

時間：福島県立医科大学 11 号館 第 2 臨床講義室

